

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 「意味なき今日も」

ある日のライブで歌い終わると、一人の女性が自分も音楽をやってるんです、と声をかけてくれた。彼女は続けて、自分のそばに生きる希望を失くしてる人がいること、その人にかける言葉をいつも見つけられず無力感を抱いてた、と声を震わせた。最後の歌を聴いて友人にかける言葉が見つかったと教えてくれた。

その日の最後に歌った歌は“いみなき今日も生きる鼓動”。あたしたちは生きることに意味を見つけたがる。誰のため、何のため、自分はここに生まれたのが。生きてるのが。意味が見つからん時は不意になって生きる価値がないと自分を追い込む。いらん、いらん。意味なんかいらん。誰かの役に立たんでいいし、何かのために生きんでええ。そこに生きとる、それが答え。

そんなことを思いながら書いた曲。直接的な言葉は使ってないんやけど、あたしの伝えたいことは彼女にきちんと伝わった。嬉しかった。彼女とその友人の今日が、生きる意味を見つけれずとも鼓動を打っていますように。

(テノヒラkiku)

あいなん逸品図鑑 その⑥

逸品 図鑑 「甘平」

生産者 坂尾 ^{えいじ}英治さん(御荘和口)



愛媛CATV
の動画はこちら
から



▲枝の剪定作業を行う坂尾^{えいじ}英治さん。御荘和口の自然環境は甘平栽培に適していると言います。

6年前に町職員を退職し、甘平の栽培に取り組んでいる坂尾^{えいじ}英治さん。甘平は愛媛県が開発した比較的新しい品種で、生産地は県内に限られています。「希少価値があり、まだ食べたことがない方も多いのでは」と坂尾さん。品種としての将来性に期待しています。

現在の栽培の規模は2反ほどで、2月の出荷までは枝の剪定作業や鳥獣対策などを行い、全量を農協に出荷します。甘平は外皮が薄くて割れてしまうことが多く、「自然現象にはなかなか勝てない」と栽培に関する苦労は絶えません。

甘平の柑橘としての特徴はその甘さと食感。食べた方からの評判も良く、「こんなの初めて食べたと言われる」と手応えを感じています。「私が農業を初めたのが最近なので、まずは良い樹木に育つようにこだわって育てたい」と今後の展望を見据えました。



▲手のひらサイズに大きく成長した甘平。しっかりとした食べ応えと上品な甘さが特徴です。